

「第三次世界大戦はもう始まっている」

野瀬隆平

9月19日のサロン21は野瀬が担当いたします。

議論する前に私がお話しする主な項目は、下記のとおりです。

タイトルにある『第三次・・・』は、フランスの人口・歴史学者エマニュエル・トッド（1951年生まれ72才）が、ロシアのウクライナに侵攻直後の2022年3月に著した文章の題名。

「戦争の責任は米国とNATOにある」

「ロシアがウクライナの一部を併合したのも頷ける」

「ネオナチ」の由来

「すでに第三次世界大戦に突入している」

「ロシアが米国と戦っているのだと見れば、ロシア人は我慢できる」

「ロシアの経済は意外と強い。制裁に耐えうる。むしろ西側に打撃」

「プーチンは狂気というより戦略的である」

「誤算は、ウクライナの人たちが「反ロシア」にアイデン

ティティを見出し、ナショナリストでニヒリスト（自暴自棄）の武闘派になっていったこと。」

「欺瞞に満ちた西欧の道徳的態度」

「戦いの後、ウクライナに残るのは、反米感情。」

「ソ連が成立するまで、ウクライナは国家として存在していなかった。」

このようなトッドの見方の背景にあるのは、地政学的な考え方と、彼独特の家族制度についての考え方。

地政学の基本的なコンセプト

- ① シーパワーとランドパワー
- ② ハートランド、リムランド、オフショア
- ③ チョーク・ポイント
- ④ バランス・オブ・パワー

欧州小国の戦略

日本の置かれている立場と問題点

最後に再びトッドの言葉（議論の余地がある考え方。）